

2018 年度事業報告書

2018 年度は法人設立 20 周年という節目の年であり、全職員が自覚と誇りを持ち活動に取り組み地域に貢献できた年度であった。一方で、2002 年より 17 年間継続した「みんなおいデイ」、2011 年から 8 年間継続した「いきいきクラブ」の「介護予防・日常生活支援総合事業」の「通所型 A 型事業」2 事業を行政との協議の末、双方の条件が合わず、2018 年度いっぱい撤退という決断を迫られた。

介護保険事業の訪問介護・通所介護の収支が落ち込み決算内容としては厳しい一年となった。

2018 年度に事業計画として掲げた項目についてはおおむね次のような結果であった。

(1)20 周年記念事業の実施

先述したとおり 2018 年は法人設立 20 周年の節目に当たり、前年度より実行委員を組織し、5 月 26 日の通常総会后、丹波マーケスコミュニティーホールにて来賓・職員含め約 100 名の参加を得て「設立 20 周年記念の集い」を開催した。

(2) 新事業の開発

従来より検討していたが、「泊まり」や「小規模多機能」などはハード面で現在の建物では対応しきれず新しい投資が必要で、今期の決算内容などからは現状では厳しいとの判断に至った。

「共生型」については「京丹 BAR」などに参加。また相談支援従事者の資格を 2 名が取得するなど障害制度に理解を深めた。

(3) 活動拠点の整備構想

事務所・事業場の整備については前項の新事業の開発と合わせて勘案する必要があり、事務所・事業場の統一を求める声もあり、引き続き将来の実現に向けて調査・検討を進める。

(4)次世代の育成

2018 年 3 月末で事務局長、山下幾雄が退任し理事長の指名により新事務局長に林晃平が就任することが決定した。

今年度新たに訪問介護員 1 名が介護福祉士試験に合格した。

新たに通所介護の介護職員を 1 名採用した。

その他の事項については次の通りであった。

◆ 会員

会員数は次表のとおりで、年度末時点で正会員 69 人のうち 49 人が役員及び職員で、それ以外が 20 人となっている

	18 年度末	17 年度末	増減
正 会 員	69 人	68 人	入会 3 人、退会 2 人
協 力 会 員	37 人	37 人	

賛助会員	13社	11社	入会2社
------	-----	-----	------

◆ 機関会議

① 通常総会

日時：2018年5月26日(土)10時00分～12時

場所：丹波マーケスコミュニティホール

出席：正会員68人中59人出席(本人出席32人、書面表決25人、委任状2人)

議題 第1号議案 2017年度事業報告承認の件

第2号議案 2017年度活動決算承認の件

第3号議案 2018年度事業計画承認の件

第4号議案 2018年度活動予算承認の件

第5号議案 理事8名選任の件

第6号議案 監事2名選任の件

太田昇京丹波町長を来賓に迎え、全議案とも原案どおり可決承認した。

役員改選では前理事伊藤有為子が監事に選任され、理事8名、監事2名の選任となった。

② 理事会

年間3回開催し、それぞれの時点での活動状況や課題を協議した。

第1回 2018年5月19日(土) 通常総会提出議案について

第2回 2018年10月24日(水) 活動の現状報告について

第3回 2019年3月6日(水) 決算見込と賞与の支給について

◆ 職員

① 常勤職員

前年度と変わらず13人で、事務所8人(ヘルパー部門4人、ケアマネジャー3人、外出支援1人)、デイサービス4人、カフェ及び「みんな、おいデイ」等担当1人を基本の配置とした。

3月末でカフェ及び「みんな、おいデイ」等担当職員1名が退職した。

② 非常勤職員

11月にデイサービス職員1名を新規採用、12月に同じくデイサービス職員が1名退職した。3月末で昨年度より休職中だった「みんな、おいデイ」等担当職員が退職となった。

配置は訪問介護18人、デイサービス13人、「おいデイ」等6人、事務2人とし、必要に応じて兼務した。

◆ 研修

① 内部研修

職員による研修委員会を組織し、職員自身の企画・運営によりヘルパー会議において次表の研修を実施した。

時期	テーマ
7月	非常時緊急時の対応

8月	プライバシー保護、法令順守
9月	認知症
10月	交通安全
11月	感染症予防
1月	介護技術
2月	虐待防止・身体拘束排除

②外部研修・会議出席等

介護技術や知識、事業所運営に関して関係機関や民間が開催する研修や会議に担当者や希望者を参加させた。主なものは次表のとおりである。

	テーマ	主催
5月	京都府市町村認知症施策連絡会	京都府
6月	亀岡市手話言語及び障害者コミュニケーション条例施行記念イベント	亀岡市
	認知症カフェセミナー	京都認知症カフェ連絡会
7月	京都ちーびーずワークショップ交流会	京都ちーびーずくらぶ
8月	あなたが始める介護保険外サービス	雲母書房
	相談支援専従者初任者研修	京都府
9月	サービス等生産性向上 IT 導入補助金活用セミナー	リコージャパン
	感染症対策研修会	京都府
	介護職外国人技能実習制度セミナー	企業ネットワーク協同組合
	京丹 BAR	
10月	認知症リンクワーカーフォローアップ研修	京都府
11月	働き方改革関連法説明会	京都労働局
	圏域相談支援センター会議	南丹圏域障害者総合支援ネットワーク
	ゲートキーパー入門講座	京丹波町
12月	パソコン補助具・重度障害者意思伝達装置説明会	京都市北障害者支援センター
	移動送迎活動のための合同研修会	NPO 法人移動送迎支援活動情報センター
	1人仕事をされている世話人・ヘルパーのためのスキルアップ研修	京都知的障害者福祉施設協議会
1月	京丹波町ヘルパーの集い	
2月	働き方改革関連法改正概要セミナー	リコージャパン
3月	南丹地域在宅医療移行支援パネルディスカッション	京都府看護協会

◆広報活動・その他

①情報発信

『クローバーだより』を毎月約 400 部発行し、会員、全利用者、関係機関等に配布した。

インターネットでの情報発信は出来なかった。

②職員クラブ活動

「気功・絵手紙」クラブが月 1 回の活動し、一般住民を含め毎回約 10 人が参加した。

③おせち料理配布

NPO 法人まごころサービスあい愛と連携し、同法人作製のおせち料理 36 食を希望者に届けた。

◆ 「助け合い」事業

①ヘルパー活動

実際にサービスを利用したのは 15 人で、このうち「助け合い」のみの利用は 1 人、他の人は介護保険の限度額超過分の振り替えであった。

利用実績は前年度を上回り、制度サービスの補完としての役割を果たしたが本来の意味での「たすけあい」という活動にはなり得なかった。

京丹波町高齢者日常生活支援事業による住民税非課税世帯の利用者に対する利用料減免は 11 人、減免額合計は 75,000 円であった。

〔利用実績〕（※利用者数の「合計」は、月々の利用者実数を年間合計したもの、以下各表とも同様）

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	5.7	10	2	68	75	90.6%
回数(回)	90.7	137	55	1088	745	146.0%
時間数	97.35	144.50	60.15	1168.15	770.25	151.7%

②認知症支援

「認知症カフェ」を毎週月曜日(祝日を除く)に開催した。認知症当事者や介護者よりも一般住民の参加が多いのが実情だったが、認知症学習会や臨床美術教室、「健康マージャン」をほぼ毎月 1 回、ミニコンサートを 2 か月に 1 回開催し、月 1 回は参加者自身の手作りによる昼食会を実施した。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数	4.5	6	3	54	55	98.2%
延べ利用者(人)	103.3	128	68	1239	1037	119.5%

カフェを拠点として京丹波町委託の認知症専門相談窓口設置事業を実施した。

認知症地域支援推進員 1 人を配置し、認知症家族交流会や個別相談や学習会などを開催した。尚、次年度の認知症地域支援員については職員の退職により受託を見送ることとなった。

	会 場	回数/年	延参加者
個別相談	当事者宅、他事業所、クローバーカフェ	15 回	
認知症介護家族交流会	クローバーカフェ	4 回	21 人
認知症学習会「わいわいクラブ」	クローバーカフェ（※カフェ事業と重複）	10 回	255 人

臨床美術教室「脳いきいきアート」	クローバー・カフェ（※カフェ事業と重複）	12回	114人
------------------	----------------------	-----	------

◆ 外出支援事業（福祉有償運送）

前年度を下回る利用状況であった。利用者には便利なサービスだが、時にはタクシーのような使い方を求められる時もあり、対応に苦慮する場面もあった。

また、理事数名にボランティア運転手として協力を願い利用者の多い日の対応にあたった。

日本財団に軽自動車1台の助成を申請し97万円の助成を受け車椅子対応の軽自動車1台を導入し、老朽化した車両1台を更新した。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	65.1	72	52	781	852	91.7%
回数(回)	243.8	265	213	2,926	3,098	94.4%
走行距離(km)	2196.0	2,570.5	1,891.3	26,351.8	28,478.1	92.5%

◆ 通所型サービスA事業(総合事業)

①「みんな、おいデイ」事業

今年度から下山会場が上豊田会場と統合され、上豊田公民館、中央公民館の2会場での実施となった。

報酬の切り下げや開催回数の削減、利用者数も減少傾向であったことからこれ以上の事業継続は困難だと判断し、次年度の事業撤退を決めた。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比	
開催回数	4	4	4	48	72	66.7%	
利用者実数(人)	45.3	48	42	543	620	87.6%	
延べ参加者(人)	83.6	89	77	1,003	1,083	92.6%	
会場別	中央	48.0	52	43	576	526	109.5%
参加者	上豊田	35.6	41	32	427	557	76.7%

②「いきいきクラブ」

今年度より会場をクローバー・カフェに移しての実施となった。

「みんな、おいデイ」と同じ理由より次年度の事業撤退を決めた。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比	
開催回数	4	4	4	48	48	100.0%	
利用者実数(人)	26.5	28	25	318	359	88.6%	
延べ参加者(人)	47.2	53	43	566	619	91.4%	
班別	1班	25.2	28	23	302	324	93.2%
参加者	2班	22.0	25	19	264	295	89.5%

◆障害者居宅介護事業

利用実績は利用人数は減少したが、回数、時間数は前年を上回った。

利用者実数は年度末で 11 人、本サービスのみの利用が 9 人で他の 2 人は介護保険との併用であった。また早朝・夕方・休日などヘルパー配置が間に合わず、必要なニーズに応じられなかったケースもあった。

障害事業所の会合「京丹 BAR」に参加し、町内の他事業所との情報交換と親睦を図った。

8 月には 2 名の職員が相談支援従事者の資格を取得した。

〔利用実績〕

	月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	8.3	10	7	99	102	97.1%
回数(回)	70.3	81	58	844	825	102.3%
時間数	68.77	77	51.25	825.25	743.50	111.0%

◆介護保険事業

①居宅介護支援

新規利用が 12 人あり、利用停止は施設入所 7 人と死亡 5 人の 12 人であった。

専任 2 人(うち 1 名、管理者)、兼務 1 人の職員体制で、1 名は更新研修を修了した。

今年度より指定権限が京都府から京丹波町に移った。

医療との連携を重視し、地域連携室を通じ入院時情報提供、退院時情報収集に努めた。

利用者の高齢化に伴い状態の変化の大きい方が目立ち、区分変更や、長期入所の希望が増えた。

マニュアル見直し・満足度調査においては今年度も実施することは叶わなかった。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
件数	介護	54.3	59	47	652	690	94.5%
	予防	3.2	4	2	38	30	126.7%
	総合	1.3	4	1	15	14	107.1%

②訪問介護

新規利用は 14 人、施設入所による利用停止が 3 人、死亡による停止が 1 人であった。訪問介護員の不足など必要なニーズに応えられないケースもあった。年度末での利用者実数は 44 名で、生活援助が大半を占め、冬季においてはショートステイ利用、体調不良による入院などで利用が低減。新規の依頼も少なく、依頼があっても安定した利用につながらないケースも多く、結果として前年度を下回る実績となった。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
利用者数(人)	介護	42.6	45	37	511	541	94.5%
	総合	5.1	7	4	61	88	69.3%

回数(回)	介 護	581.1	676	490	6,973	8,410	82.9%
	総 合	27.3	41	18	328	566	58.0%
時間数 (時間)	介 護	529.64	605.5	454.83	6,355.66	7,141.02	89.0%
	総 合	24.60	36.50	16.50	295.20	500.75	59.0%

③通所介護

今年度は複数回利用の利用者の死亡、施設入所が相次ぎ前年実績を下回る結果に終わった。新規利用は15人で、施設入所7人と死亡2人その他2人の計11人が利用停止となった。

京丹波町の介護相談員派遣事業の相談員2名を受け入れ、介助ボランティア・音楽ボランティアの活用、小学校、保育園、他事業所との交流も行った。

10月に京丹波町では初の開催となった認知症の啓発活動イベントの「RUN 伴」に利用者、利用者家族、職員が参加した。

地域密着型運営推進会議は8月と2月に開催し災害対策の避難訓練も10月と3月に行った。

〔利用実績〕

		月平均	最多月	最少月	本年度合計	前年度合計	対前年度比
開催回数(回)		25.7	27	24	308	307	100.3%
利用者 実数(人)	介 護	30.5	34	28	366	390	93.8%
	総 合	2.8	5	2	34	31	109.7%
延利用 者数(人)	介 護	268.2	301	234	3218	3602	91.1%
	総 合	12.5	22	8	150	150	100.0%
1回平均(人)		10.94	12.0	9.8	10.94	12.22	89.5%

以上